

中世宇土城跡の調査と整備

現在、中世宇土城跡（西岡台）では、発掘調査で見つかった建物跡や堀跡・門跡などの整備を進めており、多くの市民や歴史愛好家が訪れています。

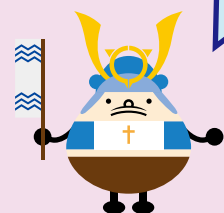
現地で、往時の宇土を治めた領主達に思いを馳せてみては、いかがでしょうか？



掘立柱建物跡などの整備状況（三城及び周辺地区）



整備された城門と柵（千畳敷及び周辺地区）



専門家の指導のもと、整備が着々と進められています！

様々な瓦の文様



桐文瓦（近世宇土城跡）
宇土市教育委員会蔵



三ッ巴文軒丸瓦（近世宇土城跡）
宇土市教育委員会蔵



十字文（クルス文）
軒丸瓦（矢部城跡出土）
山都町教育委員会蔵

近世宇土城跡の発掘調査では、数トンにもおよぶ大量の瓦が出土しました。軒丸瓦や軒平瓦には三ッ巴文や唐草文、桐文などの文様が施されています。行長の家臣・結城弥平次（ゆうきやへいじ）が城代を務めた矢部城跡（愛藤寺城跡）では、十字文（クルス文）の軒丸瓦が出土しています。



とても珍しいクルス文の瓦だ！

ヨーロッパに伝わった行長の残影

行長を主人公にしたオペラ台本の写し（1607年、イタリア）



日本図（オランダ製、17世紀、宇土を示す「Vto」の表記がある）
宇土市教育委員会蔵

関ヶ原合戦で敗れ、刑死した行長。しかし、その業績はイエズス会宣教師達により、ヨーロッパへ報告されました。

行長の死後、7年後には、イタリアのジェノバで行長を主人公にしたオペラが上演されるほどで、当時の日本と異なり、ヨーロッパでは高く評価された人物といえます。



行長公は、遠く離れたヨーロッパで評価されていたんだね！

再評価される行長

かつては「資料が少ない」といわれた小西行長でしたが、近年の調査研究により、謎の多かったキリシタン大名の実像が明らかにされつつあります。

また、宇土市が平成20年度より取り組む「シリーズ再検証・小西行長」（現在、「よみがえる小西行長公」に改称）では、歴史・考古学研究者による最新の研究成果が発表されるなど、行長に対する再評価の機運が高まっています。



「海の司令官・小西行長」
ドラマ撮影状況（平成23年9月、制作：テレビ熊本）



シンポジウム「小西行長を見直す」（平成21年11月）



すごい！
行長公を主人公にしたドラマが制作されたんだね！

中世宇土城跡：金箔付土師質土器、東南アジア・中国製陶磁器
近世宇土城跡：鉄製大砲片、鉄製茶釜、慶長十三年銘滴水瓦
麦島城跡（八代市）：隆慶二年銘・萬曆十二年銘滴水瓦（朝鮮半島製）
古麓能寺遺跡（八代市）：朝鮮半島製・中国製陶磁器、砂岩製茶臼
矢部城跡（愛藤寺城跡、山都町）：クルス瓦（十字文瓦）、巴文軒丸瓦
※協力：熊本県教育委員会、八代市、八代市教育委員会、山都町教育委員会

7月28日（土）13：30～16：00

「日本史の中の中世宇土城」 芥川博士（宇土市教育委員会）

「ここまでわかった行長の城」 藤本貴仁（宇土市教育委員会）

会場：宇土市立図書館郷土資料室

参加費：無料（定員：50名）

【お問合せ先】

〒869-0433 宇土市新小路町95 宇土市教育委員会 文化課

TEL 0964-23-0156（直） FAX 0964-58-1005

E-mail bunka03@city.uto.kumamoto.jp

【宇土市ホームページ】 <http://www.city.uto.kumamoto.jp/>

【パンフレット作成】 宇土市教育委員会 ※不許複製

よみがえる 宇土城

平成24年度企画展

～宇土氏・名和氏から小西氏・加藤氏へ～

展示紹介パンフレット



小西行長銅像



行長公が整備した
宇土城と城下町の
想像図だよ！

小西行長公マスコットキャラクター
うとん行長しゃん

平成24年7月28日（土）～9月23日（日）

宇土市立図書館郷土資料室

入場
無料

I 宇土氏・名和氏と中世宇土城（西岡台）



中世宇土城跡航空写真（南より）



中国製・朝鮮半島製陶磁器（中世宇土城跡出土）
宇土市教育委員会蔵

■ 最初の宇土城主・宇土氏

最初の宇土城主は宇土氏で（14世紀～16世紀初め）、菊池氏の一族と伝えられています。当時、宇土庄の庄官として、年貢の取り立てや治安維持などを行っていたと考えられます。

文亀元（1501）年、宇土為光（ためみつ）は、肥後国守護だった菊池能運（よしゆき）から守護職を奪っており、かなりの力をもった領主だったようです。しかし、文亀3（1503）年に菊池軍と争って破れ、宇土氏は滅亡してしまいました。宇城市不知火町大見には、為光の墓と伝えられる石塔があります。

■ 名和氏、八代から宇土へ

宇土氏滅亡後、宇土城主となったのは伯耆国（鳥取県）出身の名和氏です。正平13（1358）年、武功により得ていた八代に移り住みました。以後、八代を中心として勢力を伸ばしましたが、文亀4（1504）年、名和顕忠（あきただ）は、居城の古麓城（八代市）を人吉の相良氏に攻められて北へ逃れた後、同年、宇土城に入城しました。

以後、名和氏は80年余り宇土を治めましたが、天正15（1587）年、豊臣秀吉の九州平定によって城主・名和顕孝（あきたか）は宇土城を開城。翌年には、小西行長が肥後南半を治める領主として宇土城に入りました。



宇土殿や名和殿も、
この海外の高級な茶碗で、宇土の
うきかもんを食べていたのかも？

II キリシタン大名・小西行長と近世宇土城

キリシタン大名・小西行長は、永禄元（1558）年、大坂・堺の豪商だった小西隆佐（りゅうさ）の子として京都で生まれ、若い頃にキリスト教の洗礼を受けました。洗礼名はアゴスチノといいます。

秀吉による九州平定後の天正16（1588）年、宇土・益城・八代などの肥後の南半分（約14万6千石）の領主として入国。宇土に本拠をおき、新たに近世宇土城（城山）の築城に着手しました。

しかし、間もなく先鋒として2度にわたり朝鮮半島に出陣（文禄・慶長の役：1592～1598年）。文禄の役では、破竹の勢いで首都・漢城（現在のソウル）や平壤を占領しました。

一方、豊臣政権における外交の責任者として朝鮮王朝や明との和平交渉を任されるなど、日本の命運を左右する重要な役割を担いました。

しかし、石田三成率いる西軍の主力として参加した関ヶ原合戦で敗戦。京都六条河原で斬首されてしまいました。



小西行長銅像



今日の宇土市街
地の基礎がつけられた
のは、行長公の時代
なんだよ！



近世宇土城跡縄張り図（地形図）



近世宇土城跡航空写真（南西より）



近世宇土城跡航空写真（1962年撮影）



備前焼・中国製陶磁器（近世宇土城跡出土）
宇土市教育委員会蔵

III 行長から加藤清正の時代へ



慶長国絵図（慶長9年〔1604〕～10年頃）に描かれた宇土城。天守閣とみられる建物が表現されている。



慶長十三年（1608）銘滴水瓦（近世宇土城跡出土。この頃、清正は宇土城改修に着手したとみられる）
宇土市教育委員会蔵 ※市指定文化財



発掘調査で姿を現した近世宇土城跡本丸石垣（石垣下部の白く見える部分が土砂に埋まっていた）

行長が関ヶ原にいた時、加藤清正は合戦に参加しておらず九州にいました。清正は、関ヶ原合戦が行われた数日後、宇土城に攻撃目標を定めました。これは、清正が関ヶ原の結末を知る10日も前の軍事侵攻でした。

籠城した小西軍の兵は、少ないながらもよく戦いました。宇土城本丸北側の運河を利用して船で攻めてきた加藤水軍を、城内からの砲撃で撃沈したと伝えられています。しかし、開戦から1ヵ月後、留守を預かっていた行長の弟・小西隼人（はやと）は、ついに宇土城を開城しました。隼人は切腹、残る家臣は助命され、行長の領地は清正に引き継がれることになったのです。

その後、清正は自身の隠居所にするため、宇土城を大規模に改修しました。慶長13（1608）年銘の滴水瓦が出土していることから、この頃には改修に着手していたとみられます。しかし、清正の死後、翌年の慶長17（1612）年、幕府の命令で宇土城は破却を受け、さらに天草島原の乱後にも徹底的に破壊されました。



本丸の発掘調査で発見された石罫（下層期遺構〔小西時代〕）



明治時代の地籍図に現れた家臣屋敷群の痕跡（長方形の畑部分が屋敷地跡、その周囲の田が堀跡）
宇土市教育委員会蔵



塩田家臣屋敷群（城山塩田遺跡）出土の建築部材



鉄製大砲の破片（近世宇土城跡出土）
宇土市教育委員会蔵



鉄製茶釜（近世宇土城跡出土）
宇土市教育委員会蔵



行長公も
茶の湯を
たひなん
ていたん
だよ！